栗山赤十字病院 施設整備計画

令和3年6月8日

はじめに

栗山赤十字病院は昭和 27 年に栗山町立病院として開設されたのち、昭和 29 年にその運営を日本赤十字社に移管され、栗山赤十字病院としての歩みを進めてまいりました。

「私たちは、赤十字の理念である人道、博愛、平等に基づき、地域の病める人が癒される医療を提供し、健康で明るい町づくりに貢献するよう努めます。」を理念に掲げ、南空知医療圏の南部を中心に、地域の皆様の温かいご支援のもと、今日まで運営してまいりました。

しかし、そうした中で、現在の建物は昭和 55 年に建設されてから、40 年が経過し、施設の老朽化、狭隘化が進み、施設設備の刷新が当院の喫緊の課題となっております。

またその間、当地域においては大きな災害は長年なかったものの、平成30年に北海道 胆振東部地震が発生し、栗山町においても震度5弱の揺れが観測されました。病院建物に は大きな被害はありませんでしたが、今後想定しうる有事の際に赤十字の使命である災害 救護の役割を果たすうえでも、施設整備の重要性が再認識されたところです。

一方、今日の医療政策の中では、地域における病院の果たすべき役割や医療機能の再検証と、それに基づいた地域包括ケアシステムの構築が求められています。当院としても、地域住民・医療機関・介護施設、及び行政との連携を深め、求められる医療・介護サービスを提供していくことで、地域社会に貢献してまいりたい所存です。

こうした中で、栗山町では平成22年より医療環境整備に向けた取組として、様々な会議体において議論がなされ、令和元年度に設置された「栗山赤十字病院改築等検討委員会」において、病院整備については「栗山赤十字病院の改築・改修が一番望ましい」との結論に至ることとなり、当院と栗山町が一体となって新病院建設に取り組んでいくこととなりました。

今後、新病院建設に取り組むにあたり、赤十字病院としての使命と当院が当地域に果た すべき役割・病院像を基本構想書として取りまとめましたので、ここに報告いたします。

> 令和3年6月8日 栗山赤十字病院 院長 天崎 吉晴

栗山赤十字病院の施設整備計画について

- 1. 栗山赤十字病院の施設現況
- 1-1. 病院の概要
- (1) 所在地
- (2) 敷地面積
- (3)延床面積
- (4) 許可病床数 実動病床数
- (5) 主要建物
- (6)診療科目
- (7) 主な認定施設
- (8)沿革
- 1-2. 施設整備の必要性
- 2. 現状分析及び地域での役割
- 2-1. 外部環境
 - (1)年齡別人口推移
 - (2) 医療需要・介護需要の将来動向
 - (3) 栗山町の疾病別需要予測
 - (4) 地域医療構想における機能別必要病床数と現状の報告病床数
 - (5) 競合病院との地理的状況
 - (6) 近隣の医療・介護資源
 - (7) 栗山町における過去の災害履歴
- 2-2. 内部環境
 - (1)過去5年間の稼働状況
- (2)過去5年間の経営状況
- (3)治療状況
- 3. 新病院の構想及び工事概要
 - (1) 新病院の構想
 - (2) 新病院の診療機能
 - (3)診療規模

- (4) 整備方針
- (5) 建築工事種別
- (6)整備前後比較
- (7) 事業費
- 4. 収支・資金計画表
- 5. 配置図・現状写真

- 1. 栗山赤十字病院の施設現況
- 1-1. 病院の概要
- (1) 所在地:夕張郡栗山町朝日3丁目2番地
- (2) 敷地面積:15,177.38m²
- (3) 延床面積:8,765.32m² (鉄筋コンクリート造5階建・竣工年月:昭和55年5月)
- (4) 許可病床数:136床

実動病床数:136 床(急性期一般入院料4:56 床・障害者施設等 10 対 1 入院基本

料:40床·療養病棟入院基本料1:40床)

(5) 主要建物:病院本館 鉄筋コンクリート造5階建

延床面積:8,765.32m²

人工透析センター

延床面積:985.44m²

- (6) 診療科目(標榜診療科): 内科・消化器内科・循環器内科・リウマチ科・外科・整形 外科・泌尿器科・精神科・耳鼻咽喉科・皮膚科・放射線科・ リハビリテーション科・眼科
- (7) 主な認定施設等
 - : 救急告示病院
 - :二次救急医療機関
 - :人工透析センター (23 床)
- (8) 沿革
 - :昭和27年 町立栗山病院として開院(102床)
 - : 昭和 29 年 日本赤十字社北海道支部が病院経営を受託し、栗山赤十字病院となる
 - : 昭和 38 年 精神科病棟完成
 - : 平成4年 訪問看護ステーション開設・居宅介護支援事業者指定
 - : 平成 11 年 精神科病棟廃止
 - : 平成 14 年 療養病棟開設
 - : 平成 17 年 人工透析センター新設
 - : 平成 21 年 訪問看護ステーション・居宅介護支援事業所廃止
 - : 平成 22 年 療養病床増床 病床数 136 床 (一般 56 床・療養 80 床)
 - : 平成25年 療養病床40床を障がい病棟40床に変更

1-2. 施設整備の必要性

当院は、昭和27年に町立病院として開設し、その2年後に日本赤十字社に移管されて以来、南空知医療圏において急性期から慢性期まで医療を担ってきた。

「私たちは、赤十字の理念である人道、博愛、平等に基づき、地域の病める人が癒される

医療を提供し、健康で明るい町づくりに貢献するよう努めます。」という当院の理念に基づき医療を提供している。

地域の医療提供体制に目を向けると、栗山町に存在する病院は、現在、栗山赤十字病院のみである。後述のとおり、入院患者は栗山町を中心として、隣接する夕張市、由仁町の患者であり、この1市2町の患者で入院患者全体の92.5%(2019年度実績)を占める。この隣接する夕張市・由仁町ともに、有床診療所はあるものの病院は存在しないため、今後さらに高齢化が進む南空知地域の南部の医療提供体制にとって、高齢者疾患を中心とした一般急性期機能を担う入院病床を有する当院の果たす役割は大きいものであり、地域の発展と町づくりの支柱として寄与するものである。

一方、栗山赤十字病院の建物は、昭和55年に旧建築基準法のもと設計・建築された建物であり、耐震診断の結果、震度6強から震度7での地震で倒壊・崩壊の恐れがある建物として公表されている。

(http://www.pref.hokkaido.lg.jp/kn/ksd/anzensuisin/sinndannkekkakouhyou.htm)

そのため、大規模地震の発生時には倒壊の恐れも危惧されるため、持続可能な医療の提供体制を維持し、災害時の赤十字病院としての機能・使命を果たすための施設整備が必要となる。

また、日々の病院運営において、施設の老朽化に伴う種々の問題が下記のとおり発生している。

① 施設の老朽化

- ・給排水設備の耐用年数が到来し、全体的な大規模改修が必要となっている。
- ・一部では雨漏りが発生しており、外壁の改修が必要である。
- ・エレベーターのメンテナンスは行っているが、建物同様に経年劣化もあり今後も使い続け るには不安が残る。

②施設の狭隘化

- ・入院患者の疾患は、慢性期疾患、回復期疾患の患者が多くを占めていることから、在院期間が長くなっている。しかし、現状の病院は在院期間が長い患者が多くいるにもかかわらず、病室の病床当りスペースに余裕がないため、患者は比較的狭い空間で療養している。
- ・また、外来診療部門にもスペースの余裕がないため、医療機器更新時には最新機器導入で 困難を極め、また、MRI など導入を見送っている機器もある現状である。
- ・その他、患者動線、職員動線が狭く診療及び療養を行う上で支障を来している。
- ・多床室病室では、医療機器を入れると更に狭くなるため、定員どおりの運用が出来なくな ることがある。

③患者・家族のプライバシー、アメニティ

- ・病棟の個室や患者家族との面談室が不足しているため、患者のプライバシー確保が難しく なっている。
- ・医療・重症度、看護必要度の高い患者対応及び患者の感染症対策の個室が不足している。

当院の建て替えについては、病院のみならず、栗山町においても、平成 22 年度より医療環境整備に向けた重要な行政課題として認識されており、「栗山赤十字病院あり方検討会」や「栗山町の医療環境整備を検討する町民委員会」、「栗山赤十字病院改築等検討委員会」等が設置され継続的に議論が重ねられてきた。

このような町での会議体においても、様々な観点から議論が重ねられた結果、広域設置、 公立病院化、医療機関の誘致、栗山赤十字病院改築改修の4つの方向性について、それぞれ 検討された。

4つの視点からの検討結果は以下のとおりと報告されている。

(要約~詳細は別添資料の通り)

「広域設置」

:空知南の拠点病院として、由仁町、長沼町、南幌町および栗山町の4町での広域設置は望ましい形ではあるが、町としての財政負担が多く、また、各町ともそれぞれ策定している公立病院改革プランに基づき、現有する公立医療機関を維持する方針であり、栗山赤十字病院の老朽化や耐震問題などから実現性がない。

「公立病院化」

:経営面についてノウハウがなく、安定経営が望めないほか、大学医局とのつながりもな く、医師の安定確保も困難となることが予測される。また、財政負担も問題となる。

「医療機関誘致」

- :病床過剰地域であり、病院新設は許可承認が受けられない可能性が高く実現性がない。 「栗山赤十字病院改築・改修」
- :公立病院を整備するより財政負担は定額となる。累積赤字はあるが、単年度収支は黒字 見込みであり、経営的に安定しており、北海道大学をはじめとする大学病院との連携強化 により医師確保の継続も可能である。

以上より、医師の安定的確保や財政負担等の点を踏まえ総合的な判断により「栗山赤十字病院改築等検討委員会」にて「栗山赤十字病院の改築・改修が一番望ましい」との結論を得ることとなった。

さらに、当院の建て替えにかかる財源措置についても栗山町にて検討されており、本事業については栗山赤十字病院のみならず、栗山町を中心とした南空知医療圏南部のまちづくりに繋がるものであり、栗山町及び栗山町民も含めた議論のもとに検討を進めるものとなっている。

2. 現状分析及び地域の状況

2-1. 外部環境

(1)年齡別人口推移

栗山赤十字病院の主たる診療圏は、住所別患者数とその構成比でみた場合、下表のとおり 栗山町、夕張市及び由仁町と定義できる。

栗山赤十字病院 住所別患者数 (令和元年度)

【入院】	患	者数	構成比		
【八班】	新入院	延べ	新入院	延べ	
栗山町	511	29,098	74.1%	72.3%	
夕張市	74	5,152	10.7%	12.8%	
由仁町	50	2,627	7.2%	6.5%	
長沼町	14	977	2.0%	2.4%	
南幌町	5	304	0.7%	0.8%	
岩見沢市	17	784	2.5%	1.9%	
札幌市	2	650	0.3%	1.6%	
その他	17	668	2.5%	1.7%	
合計	690	40,260	100.0%	100.0%	

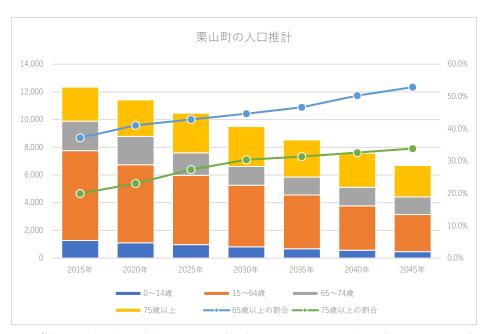
【外来】	患者数	構成比
栗山町	38,272	74.5%
夕張市	5,310	10.3%
由仁町	4,753	9.3%
長沼町	1,396	2.7%
南幌町	259	0.5%
岩見沢市	572	1.1%
札幌市	212	0.4%
その他	620	1.2%
合計	51,394	100.0%

(栗山赤十字病院 院内データより作

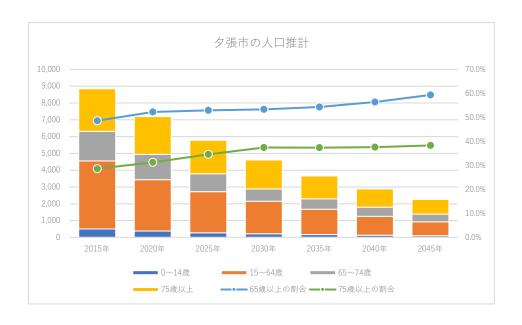
成)

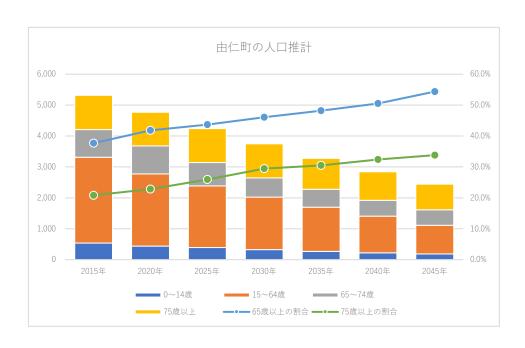
入院患者の 70%を超える栗山町の患者について、国立社会保障・人口問題研究所の人口推計によれば、総数としては、2025 年までは 1 万人以上を維持されるが、2030 年には 1 万人を下回ると推計されている。その後、2035 年の人口は 8,300 人程度まで減少、2045 年には 7,000 人近くまで減少する推計である。

一方、2020 年、2035 年、2045 年の人口構成は、65 歳以上が41.1%、46.6%、52.9%であり、後期高齢者の75 歳以上は、23.1%、31.4%、33.9%と人口に占める割合は増加の一途を辿ることとなる。



同様に、夕張市・由仁町の人口推計をみてみると、夕張市では 2020 年の人口はおよそ 7,200 人だが 2045 年にはおよそ 2,200 人なると推計され、また、由仁町は 2020 年の人口 はおよそ 4,700 人であるが、2045 年にはおよそ 2,400 人になると推計されており、この 1 市 1 町においても大きく人口が減少する推計である一方、2045 年には人口に占める 65 歳 以上の割合が 50%以上、75 歳以上の割合も 30%以上となり、主たる診療圏と考えられる 1 市 2 町では、人口減少とともに高齢化が著しく進む推計となっている。





(2) 医療需要・介護需要の将来動向

次に示すのは、日本医師会総合政策研究機構による医療・介護の需要予測である。なお、 推計の考え方は下記のとおりである。

	区分	2015 年実績	2020 年予測	2025 年予測	2030 年予測	2035 年予測	2040 年予測	2045 年予測
栗山町	医療	100	99	96	91	84	77	70
未出町	介護	100	106	112	112	104	96	88
人団	医療	100	104	106	106	104	104	102
全国	介護	100	113	128	133	132	131	133

医療介護需要予測

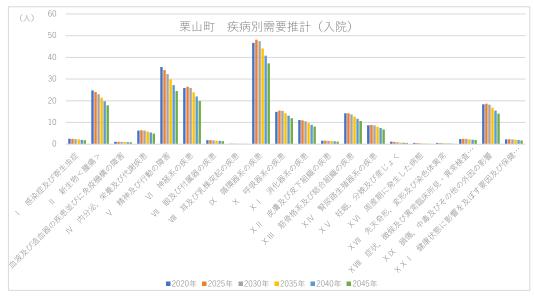
- ~各年の需要量を以下で計算し、2015年の国勢調査に基づく需要量=100として指数化
- ・各年の医療需要量=~14 歳×0.6+15~39 歳×0.4+40~64 歳×1.0+65~74 歳×2.3+75 歳~×3.9
- ・各年の介護需要量= $40\sim64$ 歳× $1.0+65\sim74$ 歳×9.7+75歳~×87.3

栗山町の医療需要は、既に減少傾向となっており、2045年には現状よりおよそ30%減少する見込みとなっている。

一方、介護需要は 2025 年~2030 年にかけておよそ 12%増加が見込まれるが、その後、減少していくと推察され、栗山町内に介護施設を新設することは現実的でないため、在宅介護と時々入所又は入院をするスタイルを定着させることが財政上の理由からも現実的であると考えられる。

(3) 栗山町の疾病別需要予測

栗山町の人口及び人口構成は(1)で記したとおりであるが、医療需要を厚生労働省発表「平成29年患者調査の概況」の北海道入院受療率で推計すると、入院の疾病別の需要推計は以下のとおりとなる。



※国立社会保障・人口問題研究所データ及び厚生労働省「平成 29 年患者調査の概況」より作成(単位:人口 10 万人あたりの患者数)

また、その増減を疾病毎にみると、2020年対2030年の増減では、脳血管疾患、循環器系疾患及び呼吸器系疾患は2030年までは増加傾向にあるが、それ以降は減少する推計となり、その他疾患は、毎年減少する推計である。

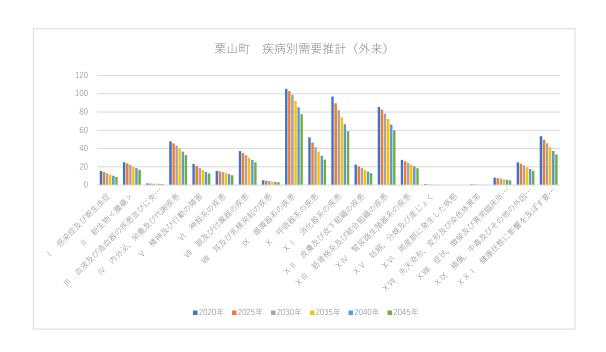
さらに、2020年対2045年の比較で見ると全ての疾患で大きく減少する推計となる。 また、隣接する夕張市及び由仁町については、既に全疾患において減少している。





一方、外来の疾病別推計を入院同様に推計すると次の図のとおり、入院と若干異なり全て の疾患が減少となる。

外来の受療は、脳血管疾患、心臓疾患は入院同様多いが、その他では呼吸器疾患、消化器疾患、整形外科疾患も外来受療、即ち外来受診が多くなっている。現在の栗山赤十字病院が行っている外来診療体制のニーズが多いことが分る。



2020 年対 2030 年及び 2020 年対 2045 年との比較を見ると下図のようになる。入院とは 異なり全ての疾患で外来受療は減少となる推計である。

この様に全ての疾患で外来受療は大きく減少することが予測され、人口推計では高齢化が進むことが予測されていることを考えると、日医総研が推計しているように介護需要は大きく増加すると考えられる。

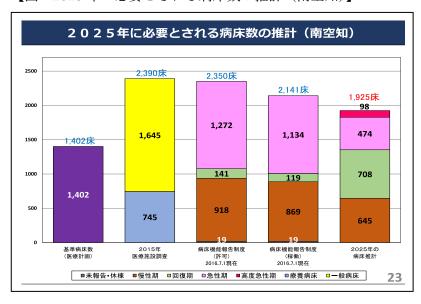




(4) 地域医療構想における機能別必要病床数と現状の報告病床数

当院が属する南空知医療圏における 2025 年の必要病床数は以下のとおりであり、高度急性期及び回復期機能が不足しており、急性期及び慢性期機能が過剰とされている。

【図 2025年に必要とされる病床数の推計(南空知)】



次に示すよう南空知医療圏において急性期機能を有すると報告している病院は直線距離で 15km 離れている岩見沢市や 30km 以上離れている美唄市に集中している。

南空知医療圏(二次医療圏)は 2,562km²の面積を有しており、佐賀県(2,441km² 三次 医療圏)を上回る広大な面積を有している中で、特に急性機機能を中心とした医療機能が特定の地域に集中していることから、同じ二次医療圏といえども、医療圏の地理的条件を考慮した上で有すべき機能を考える必要がある。

一方で、令和2年8月25日に厚生労働省から示された地域医療構想の実現にむけた重点支援区域に南空知区域が選定されることとなったが、その中では岩見沢市立総合病院と独立行政法人労災者健康安全機構北海道中央労災病院の急性期機能の維持・強化に向けた再編統合について議論を進めていくこととなった。

積雪期も含めた交通の利便性や一次産業を中心とした南空知医療圏の南部における医療 提供体制を考えるうえで、高齢者を中心とした一般急性期機能及び回復期・慢性期機能を担 う当院の果たす役割は栗山町のみならず、隣接する市町を含めた地域にとって重要なもの 考えられ、それらを総合的に判断した医療機能の維持・充実が求められる。

(5) 競合病院との地理的状況

【図 北海道の二次医療圏】



【図 近隣の医療施設との距離・位置関係】



※同心円は、5km 間隔

栗山赤十字病院を中心として同心円(5km間隔)を描くと、上図のようになり、最も近接する病院でもおよそ5km以上離れており、また、急性期機能を有する病院に限定するとおよそ15km離れた岩見沢市に位置している。

公共交通機関としては、JR・バスにて急性期病院を有する岩見沢市へのアクセスが可能ではあるが、運行本数は少なく、また、冬季は積雪により運休となることもあり、現実的な移動手段としては、自家用車によるところが大きく、今後の更なる高齢化を考慮すると利便性は高くない。

(6) 近隣の医療・介護資源

栗山町の医療施設は下表のとおりであり、病院としては栗山赤十字病院が唯一である。なお、隣接する夕張市及び由仁町は有床診療所のみであり、病院は有していない。

栗山町には6診療所があるが、病床を有する有床診療所はなく、在宅療養診療所も存在していない。今後、当地域における地域包括ケアシステムを構築していくためには、栗山赤十字病院を中心として、診療所、介護施設等との更なる連携体制を構築する必要がある。

診療領域	医療機関名	病床数
内科系・外科系	長岡医院	0
外科系	梶整形外科医院	0
内科系	板垣医院	0
内科系・外科系	つぎたてクリニック	0

内科系・小児科系	にしみこどもクリニック	0
眼科系	栗山さいとう眼科	0

一方、栗山町の介護施設は、下表の通りとなっており、全国平均と比べても比較的整備されている。しかし、栗山町の疾病別受診予測を考慮すると、脳血管疾患、心疾患、骨折、誤嚥性肺炎等の疾患が将来多くなる推計となっており、リハビリや継続的な医療が必要となる患者の増加が想定され、今後、こうした疾患を有する高齢者が施設に入所するには、介護施設のみでは対応が困難であり、栗山赤十字病院との連携は必須である。

	施設数	入所定員
介護老人保健施設	3	229
居宅介護支援	6	0
短期入所生活介護	1	29
地域密着型通所介護	3	0
通所リハビリテーション	1	0
通所介護	3	0
認知症対応型共同生活介護	3	36
認知症対応型通所介護	1	0
福祉用具貸与	2	
訪問介護	4	0
有料老人ホーム	3	71

(7) 栗山町における過去の災害履歴

平成30年9月6日午前3時8分に発生した北海道胆振東部地震(厚真町を震源地とした最大震度7)において、栗山町では震度5弱の揺れを観測し、町内全域にわたり翌日7日22時30分ごろまで停電。指定避難所16箇所を開設し、最大70名が避難するといった状況であった。

また、栗山町は石狩低地東縁断層帯南部付近に位置し、それは美唄市から岩見沢市、栗山町、長沼町、由仁町を含む断層帯であり、全体が1つの区間として活動した場合、マグニチュード7.7以上の地震が発生する可能性が予測されている。

その他、過去には台風や水害による被害が発生しているが、栗山町のハザードマップによれば、当院の近くの河川が想定しうる最大規模の降雨に伴い氾濫した場合に想定される水深は、病院の現在地については 1m未満となっている。

2-2. 内部環境

(1) 過去5年間の稼働状況

過去 5 年間の患者数推移は、入院では 110 人/日前後で推移している。また、病床利用率 は 80~82%で推移している。

		平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
	1日 平均患者数	109.2	111.4	111.8	109.1	110.1
	新入院患者数	698	762	754	714	674
	病床利用率	80.3%	81.9%	82.2%	80.2%	81.0%
入 院	損益分岐点病床利用率	83.1%	79.9%	84.1%	84.3%	81.5%
	平均在院日数	56.5	50.9	49.0	54.1	54.0
	全身麻酔手術件数	51	47	42	37	70
	入院診療単価(円)	29,775	29,170	29,085	28,745	28,348
	1日 平均患者数	221.4	210.1	198.7	202.8	215.0
外 来	新外来患者数	4,367	3,713	3,661	3,590	3,732
	外来診療単価(円)	11,136	11,295	11,749	11,990	11,319
	紹介率	17.3%	38.3%	16.7%	11.8%	17.6%
	逆紹介率	10.6%	13.7%	32.1%	14.9%	19.3%

(2) 過去5か年の経営状況

近年の経営状況としては、最近5年間で医業収益は若干の減少傾向となっているが、それに伴い、費用の抑制も合わせて進めている。経常収支は赤字となる年度もあるが、栗山町からの運営費補助等含め、業務キャッシュフロー(業務 CF)は黒字を維持しており、借入金の低減も図っている。

(単位:千円)

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
医業収益	1,851,307	1,826,178	1,802,136	1,774,552	1,755,311
(再掲)入院収益	1,190,225	1,185,878	1,187,384	1,144,300	1,142,012
(再掲)外来収益	596,688	576,740	567,192	590,935	574,918
材料費	288,229	275,462	268,466	294,369	256,162
(再掲)医薬品費	210,075	197,734	192,004	224,887	173,008
(再掲)診療材料費	73,223	70,279	70,739	62,788	75,623
給 与 費	1,162,846	1,082,975	1,174,602	1,149,917	1,118,119
委 託 費	202,213	204,816	187,181	190,157	180,848
設備関係費	131,608	117,151	100,332	102,326	107,485
(再掲)減価償却費	68,204	64,928	55,047	56,741	61,979
経費等	120,773	107,851	106,130	113,518	103,166

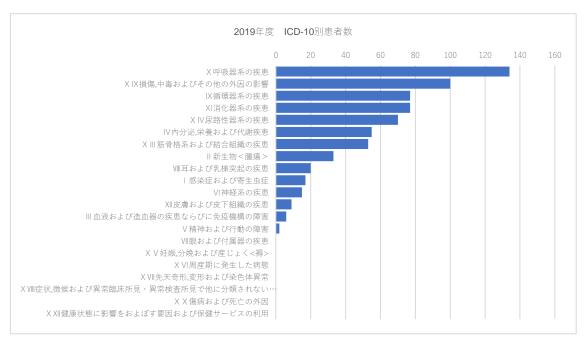
医業費用		1,905,671	1,788,257	1,836,711	1,850,287	1,765,781
医業収支		-54,364	37,921	-34,575	-75,735	-10,470
経常収支		-30,132	62,617	-17,037	-51,524	72,474
総収支		-46,141	65,539	-17,037	-59,024	71,038
業務CF		104,024	130,952	120,396	76,164	100,022
補助金	運営費	104,925	101,278	99,851	99,880	94,608
冊 切 並	設備	19,715	0	0	29,330	29,659

(単位:千円)

借入金状沉	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
長期借入金残高	400,000	150,000	300,000	300,000	450,000
短期借入金残高	2,990,000	3,136,000	2,916,000	2,800,000	2,610,000
借入金残高合計	3,390,000	3,286,000	3,216,000	3,100,000	3,060,000
要収益返済借入	3,167,165	3,053,899	2,991,813	2,894,186	2,867,327
要収益返済借入期間	28.0 年	22.9 年	25.3 年	26.5 年	29.0 年
現預金等保有高	291,641	296,662	329,200	270,644	265,942

(3)治療状況

2019 年度の入院患者における ICD-10 による疾患別の患者数を見ると、呼吸器や整形外 科疾患、循環器系の疾患などが多く、入院患者の年齢構成に呼応した疾患構成になっている。

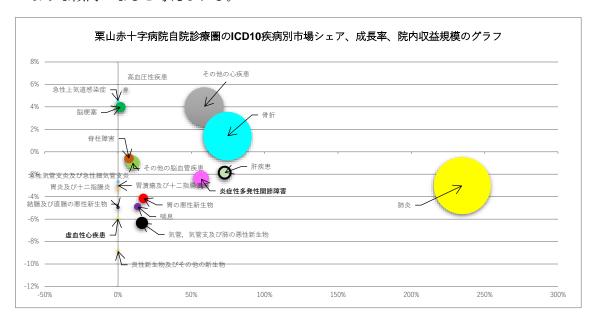


また、次の図は縦軸が将来の疾病の需要増減率を示したものであり、横軸が現時点での栗

山町の住民が疾病別の受療推計の栗山赤十字病院が対応しているシェアを示している。

呼吸器疾患のシェアが 100%を超えているが、これは栗山町の住民は北海道内の呼吸器疾患の受療率より上回っているためであり、栗山町は北海道内の平均値より肺炎患者が多いことを示している。

本データは、推計値であるため実態と乖離する部分があると考えるが、傾向としては、このような傾向になると考えられる。



3. 新病院の構想及び工事概要

(1)新病院の構想

これまでに示したように、当院の入院患者については、73~74%が栗山町の患者であり、10%前後が夕張市及び由仁町の患者で構成されており、この1市2町でおよそ92%を占めることから、主要診療圏としては栗山町であり、準主要診療圏としては隣接する夕張市及び由仁町となる。また、年齢構成としては、70歳以上の高齢者が90%以上を占め、75歳以上の後期高齢者がおよそ77%以上、85歳以上がおよそ52%以上を占めている。

一方、疾病別需要推計をみると、栗山町の入院需要は 2020 年と比較して 2030 年にかけては循環器系疾患及び呼吸器系疾患は増加傾向にあるものの、それ以外の疾患については減少し、さらに 2045 年にかけては全疾患で減少する予測となっている。また、夕張市及び由仁町について、2020 年と比較し、全疾患において既に減少する局面となっている。

当院の入院患者のICD10別の疾患は前述のとおりとなっており、入院需要推計と併せて考えると、当院で最も多い呼吸器系疾患やその件数が上位にある循環器系疾患は今後10年程度増加が見込まれるが、その他の疾患については減少の見通しとなるため、現状の病床数(136床)を維持するのは難しいと考えられ、病床数については、入院需要推計や人口の減少割合などを考慮し、今後の中長期的な視点もあわせると100床程度が現実的である。

外来の診療体制については、人口動態の推移及び外来の疾病別需要推計から考えると、すべての ICD 別の疾患群において減少する推計であるが、当地域における他院の診療機能等を考慮すると、当面は現状の診療機能の維持が必要と考えられる一方、需要の減少を考えるとその病院構造には留意する必要がある。

当地域における当院の有すべき機能としては、高齢者が対象患者の大きな割合を占めるため、有する医療資源の中で、高齢者疾患にいかに対応するかが求められる。また、国が示す地域包括ケアシステムを踏まえると、介護サービスとの連携をより強固にするとともに、医療と介護の同時需要患者へ柔軟に対応できる施設が求められる。

また、今般の新型コロナウィルス感染症のように大規模な感染症流行があった場合の対策について、南空地医療圏では、岩見沢市の急性期病院での対応が主となるが、その病床での対応が困難となった際に、当院での対応を求められることとなる。実際に、2020年度には新型コロナウィルス感染症の感染拡大に伴い、患者の受け入れを行っている一方で、病院の構造的制約がしばしば問題となった。施設整備にあたっては、こうした点も考慮する必要がある。

(2) 新病院の診療機能

南空知医療圏南部の基幹病院として、医療圏の今後の人口や年齢構成の変化に対応しつつ、一般急性期から回復期及び慢性期を担う他、救急医療の体制を維持する。入院については、一般高齢者を主とする急性期医療に対応すべく、一般急性期病棟を維持し、一定程度需要がある障がい者病棟の機能は残す。また、新たに地域包括ケア病床の設置を想定する。外来については、地域におけるかかりつけ医としての役割をも担っていることから、地域の医療体制を考慮し、現状の診療機能を維持することとするが、診察室の一部は複数の診療科においてフレキシブルに活用できるようにする。

また、栗山町の地域包括ケアシステム実現のため、地域包括支援センターと一体となり、 医療・介護の連携体制の強化を図るとともに、新たに訪問看護ステーションを併設し、在宅 医療の充実を図る。

(3)診療規模

① 診療科目

内科・消化器内科・循環器内科・リウマチ科・外科・整形外科・泌尿器科・精神科・ 耳鼻咽喉科・皮膚科・放射線科・リハビリテーション科・眼科

- ② 病床数 医療法許可及び稼働病床数は、100 床前後とする。
- ③ その他 人工透析センターは既存の施設を使用する。
- (4) 整備方針~別紙のとおり

(5) 建築工事種別

現地建て替え工事を基本とする。

(6) 整備前後比較

	現在(整備前)	整備計画(整備後)	
所在地	北海道夕張郡栗山町朝日3-2	現地建て替え	
敷地面積	15,177.38 m²	変更なし	
建物の規模・	鉄筋コンクリート造5階建	鉄筋コンクリート造4階建	
構造	延床面積 8,765.32 ㎡	延床面積 約 8,100 ㎡	
許可病床数	136 床	100 床程度	
診療科目数	13科	変更なし	

(7) 事業費

約50億円(建設費37億円、医療機器等11億円)

※事業費については、栗山町が過疎対策事業債で全額調達するが、内 70%の 35 億円は普通交付税として国から交付される。残り 30%の 15 億円については、30 年分割(年 5 千万円)で栗山赤十字病院の負担となる予定。

4. 収支・資金計画表~別紙のとおり

- ・過疎対策事業債を充当(実施設計以降分起債充当率100%) ※元利償還の70%は交付税措置(最長30年償還)
- ・交付税措置されない30%分を病院が負担 ※病床削減による特別交付税増額分を財源(栗山町からの補助金の増額)

5. 配置図·現状写真



緑枠:敷地

赤枠:現病院建物

青枠:建て替え予定地

黄枠:透析棟